

今日のキーワード「モンスーン」、今年の降雨は順調（インド）

「モンスーン」とは、もともとアラビア語で半年交代で向きが変わる風を指し、南アジア・東南アジアでは夏季の南西風がもたらす雨季のことで、インドでは6月中旬から9月の雨季を「モンスーン」と呼びます。インドは、農村人口が多く、農産物の作付に大きな影響を与える「モンスーン」の降雨状況は経済や金融市場に影響を与えます。このことから、「モンスーン」の降雨予報と実際の降雨量に注目が集まります。

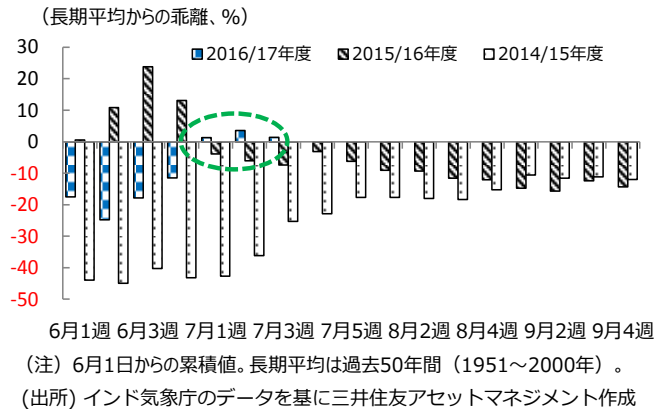
ポイント1 今年の「モンスーン」は例年以上の降雨が期待される 「モンスーン」の滑り出しは良好

- 4月の第一次降雨量予測は、気象庁と民間大手気象予報会社（スカイメット）のいずれもが例年を上回る
 平年比+6%と同+5%でした。更に6月の第二次降雨量予測では、気象庁は平年比+6%に据え置きま
 したが、スカイメット社は、同+9%に上方修正しました。
- 気象庁が7月21日に発表した7月第3週（7月14日から7月20日）までの降雨量によると、6月1日から7月
 20日までの累積降雨量は、平年を1%以上上回っています。スカイメット社は、7月以降加速的に降雨量
 が増えると予想しており、例年以上の降雨の期待が高まります。

ポイント2 インフレ低下期待も 6月の雨量は順調に改善

- 「モンスーン」期間に平年より雨が降らないと、農産物の
 作付悪化から食料品インフレを引き起こす可能性
 が高まります。また、インドは農村人口が多く、不作に
 よる農村部の消費低下は経済にマイナスとなります。
- しかしながら、インド政府はここ2年間の干ばつにも
 拘らず、十分な食糧品備蓄と農村部への補助金
 配賦などにより、インフレへの影響を抑えて来ました。
- 今後、見込み通り雨が降れば、食品需給悪化懸念
 が低下し、インフレ低下も期待されます。

インド 雨季の降雨量（週次）



今後の展開 インド準備銀行（RBI）の利下げ期待が高まる

- 国内外の波乱要因の影響を受けにくいインド
 6月18日にラジャンRBI総裁が任期満了での退任
 を発表しましたが、既に金融政策委員会設立やイン
 フレ・ターゲット導入が決定していたことで市場の動揺
 は抑えられました。また、6月23日のBrexit（英国
 EU離脱）選択でも、インド市場は、内需に依存す
 る経済（英国への輸出は3%程度）であることから
 市場への影響は比較的軽微でした。
- 波乱要因はむしろインフレ低下を後押し
 ラジャンRBI総裁は、金利引下げに慎重なことで知ら
 れており、退任後は、金利引下げバイアスが強まると
 言われています。また、Brexitにより、世界経済には
 下押し圧力が掛かることが見込まれ、米連邦準備制
 度理事会の利上げも先送りになる可能性が高くなっ
 ています。これらと順調な「モンスーン」により、インドの金
 利引下げ期待が高まっています。

ここも
チェック! 2016年7月19日 最近の指標から見るインド経済（2016年7月）
2016年7月 6日 「モンスーン国会」GST法に注目（インド）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。